

フランスのソーシャルワーク第8回

フランスの子どもの育ちと家族

安發明子

10年来の活動が1冊の本になり、8月11日に発売された。自身の妊娠出産と子育ての経験から、日本の福祉事務所でソーシャルワーカーをしていた視点から、そして研究者としての視点からと、3つの視点が織り込まれている。巻頭ページにはライフステージごとに妊娠前から出産、乳幼児期、義務教育、そして若者支援とそれぞれサービス、費用、環境面の特徴を表にしている。フリーランスで生きてきた筆者にとって、無料で出産でき、子どもが大学院に行こうと医学部を志望しようと学費や生活費の心配がいないフランスは子育てするにあたって日本より安心だと思う。しかし、それは「国」が先見の明があり人間的だからではなく、人々が生きやすい社会になるよう奮闘してきた結果可能になったことだ。筆者は

## 一人ひとりに届ける福祉が支える フランスの子どもの 育ちと家族

安發明子 著  
Awa Akiko



*mieux que rien c'est pas assez*



数々のフランス人のたたか  
いのおかげで無料の不妊治  
療で子どもを授かり、年間  
3万円の学費で大学院に通  
い現在の幸せや活動がある。

フランスの現場のワーカー  
たちは自らをミリタンと  
いう。「信念を貫きたたかう」  
という意味である。制度や  
国の指針は日仏だいたい同  
じ、それなのに人々の暮ら  
しは大きく違う。それは、  
社会をより生きやすくする  
ための人々のたたかひの違  
いである。

筆者はフランスの福祉現  
場で働く人たちの情熱に魅  
了され現場に通い続けてい  
る。困難や不足があっても  
目を逸らせたり諦めること  
はない。「人が変えていける」  
という希望を日本に届けた  
い。

もくじ

1 市民を育てる

生まれたときから意思あるひとりの人間として尊重する

2 子どもの権利

NO と言えるようになって初めて、YES が選べる

3 生活保障

出産は無料、子どもには望む教育を受けさせることができる

4 親という実践を支える

親をすることは簡単ではないから

5 家族まるごと支える福祉

家庭にワーカーが通い、家族のふだんの生活をまるごと支える

6 ジェンダー、性と子どもの育ち

基礎能力は読み書き計算、他者の尊重

ポイント：

- ・個人が社会に合わせるのではない。すべての人に居場所があるよう社会変革するのがソーシャルワーク
- ・支援者がクリエイティブでいられること
- ・人は常に最善の選択をしている、その背景を想像し、相手の望む生き方を支える
- ・担当する子どもたち・親たちを愛し続けることが、いちばん大事な役割
- ・子どもは守るべき花ではない。点火すべき火。自分のために行動する力を支える
- ・家族まるごとの支援は、子どもの保護に比べ、1/9000 のコストで済む
- ・人の悩みや抱える困難は個人的なものではなく、社会的政治的なもの  
人々が舞台ですばらしいパフォーマンスができるよう支えるのが、政治

Akikoawa.com

